

1 . 利府町の概要と図書館計画の位置づけ

1-1) 町の立地条件と環境

利府町は、宮城県のほぼ中央部に位置し、東西約 16 km、南北約 8 km と細長い、総面積 44.75 km² の町域である。町は、東側で松島町、西側は富谷町、南側は仙台市および多賀城市、塩釜市、北側は大和町と大郷町に接している。仙台市の中心部まで車で約 30 分、JR で 15 分の通勤・通学圏となっている。これまで町の北西部を中心とした宅地開発などにより、人口増加が続き、現在人口は 32,700 人（平成 17 年 8 月末住民登録）となっている。

町は、日本三景の特別名勝松島に隣接し、自然環境に恵まれている。また、宮城県総合運動場をはじめとした県内屈指のスポーツ・レクリエーション施設が設置されており、平成 13 年宮城国体のメイン会場となり、ついで平成 14 年にはサッカーのワールドカップが開催された。さらに、町の中心部には東北地方最大級の郊外型ショッピングセンターなどの進出により、地域の生活中心を形成し、賑わいをみせている。

1-2) 上位計画と図書館計画

利府町では、町の将来像を、町民一人ひとりがまちづくりの主角となって利府町の特性を生かすため「ひと・こころ・まち きらめく躍動のステージ」をメインテーマに、平成 12 年「利府町総合計画」を策定し、以下に示す 5 つの柱を定めて町づくりを進めている。

- ・いきいき学び、心豊かに人をはぐくむまち（人づくり）
- ・心がかよい、健康とやさしさをはぐくむまち（健康づくり）
- ・快適で、うるおいのある暮らしをはぐくむまち（生活基盤づくり）
- ・豊かさを支え、活力をはぐくむまち（産業の振興）
- ・住民に開かれ、対話とふれあいをはぐくむまち（まちづくり）

これらの柱を基本に掲げ、均衡のある町の発展と町民参加のまちづくりを目指すため各種施策を展開している。

なお、この総合計画では、目標達成年次は平成 22 年、その時点の人口は 40,300 人と想定されている。

総合計画の目標を達成するために、「第 3 次利府町国土利用計画（平成 13 年策定）」、「利府町都市マスタープラン（平成 13 年度改定）」などが策定されている。また「平成 14 年度・利府駅周辺地区活性化基本計画策定事業業務委託報告書（平成 15 年 12 月）」で中心市街地の活性化に関わる具体的な検討の報告がなされている。

図書館計画に関しては、総合計画策定に当り、各種施策の中で図書館は町民から要望が最も強いものであることから、建設に向けて町の「利府町図書館検討委員会」を組織し、多方面からの助言や分析等によりながら、平成 14 年 3 月「利府町図書館構想」が策定されている。

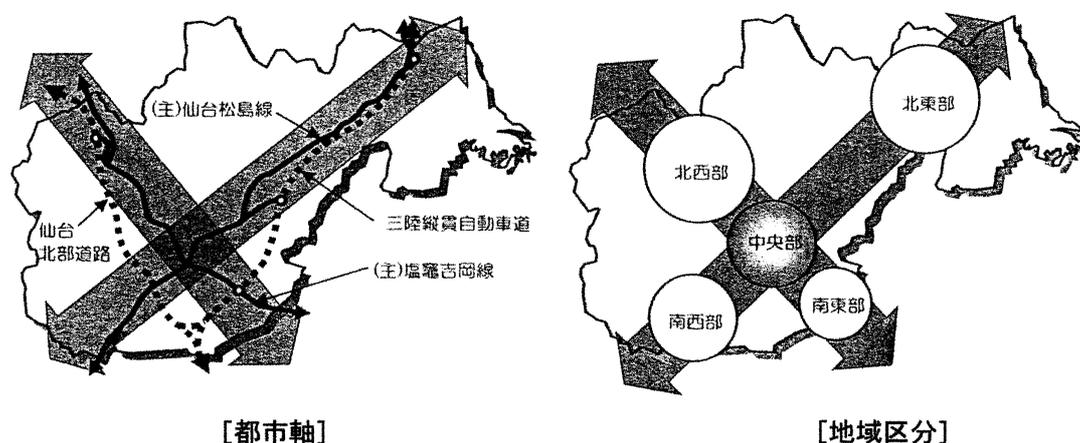
今回の「利府町図書館基本計画」はこの構想の趣旨を十分に反映しながら、具体的

な検討を行うものである。

1-3) 都市軸と交通施設・主要教育施設等の分布

[図 1-1] は都市軸のモデルを示したものである。町の都市軸は、東西の幹線道路 [主要地方道・仙台松島線] と南北の幹線道路 [主要地方道・塩釜吉岡線] で構成されている。また、町域全体の地域区分は、両道路に沿って「中央部」「北西部」「北東部」「南東部」「南西部」とされている。

[図 1-2] は、本町の交通インフラ（インフラストラクチャー、都市基幹施設）地区境界、主要教育施設などの分布を示したものである。都市軸を構成する両道路の交点周辺に町庁舎とショッピングセンターがあり、そこから東にある東北本線（利府線）終点「利府駅」に向って中心市街地が形成されている。



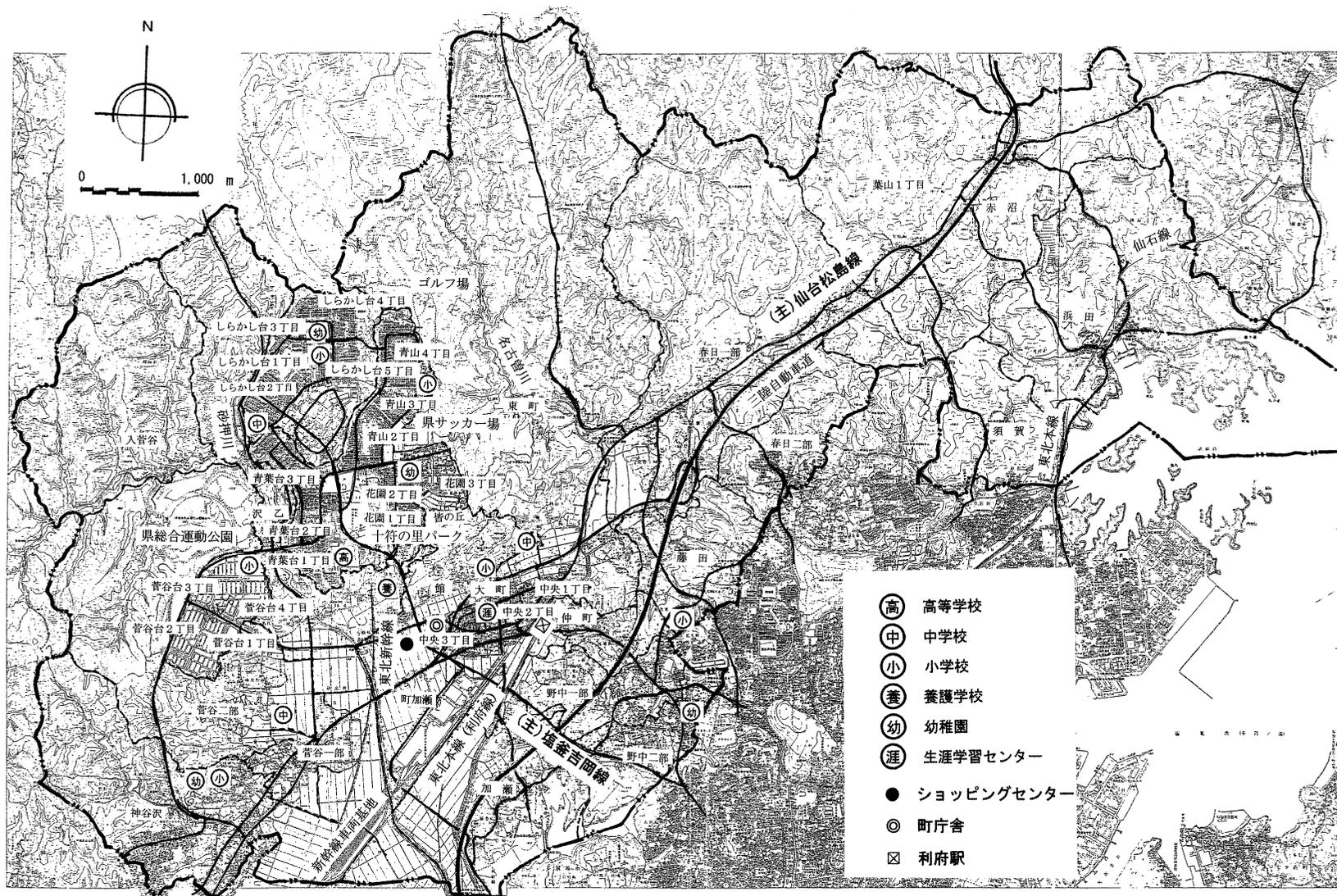
[図 1-1] 都市軸と地域区分

1-4) 人 口

町の平成 17 年 8 月末現在の地区別の人口は [表 1-1] であり、総人口 32,671 人（住民登録台帳）である。これを人口分布状況（推定）で示したものが [図 1-3] である。

人口推移については [表 1-2] のごとくである。平成 7 年から平成 12 年にかけて県内第 2 位の急激な増加を示したが、近年では増加傾向に鈍化の兆しがみられる。

人口の年齢構成は [表 1-3] のとおりである。本町においても、わが国の人口推移の小子化・高齢化の傾向を反映し、年少人口（～ 14 歳）は減少傾向、生産年齢（15～ 64 歳）はほとんど変わらないものの、高齢人口（65 歳以上）は増加傾向にある。現在のところ高齢化率は比較的低い水準（11.7 %）にある。



[図 1-2] 道路交通施設・主要教育施設・地区境界等分布図